

札幌市学校給食運営委員会
第5回学校給食における食器のあり方検討部会
議事録（要旨）

1 開催日時

令和元年6月24日（月）15：00～15：40

2 開催場所

札幌市教育委員会 6階B会議室
（札幌市中央区北2条西2丁目STV北2条ビル）

3 出席者

(1) 委員 5名

辻部会長（札幌市立小学校長会）、森委員（札幌市立中学校長会）、
千葉委員（札幌市学校給食栄養士会）、百々瀬委員（学識経験者）、
今野委員（調理員：臨時委員）

※ 欠席者：松山委員（札幌市PTA協議会）

(2) 事務局 5名

木村保健給食課長、畠山給食係長、先野栄養指導担当係長、
竹腰栄養指導担当係長、湯谷給食係員

4 開会

5 議事

部会長から、前回に引き続き会議は非公開とすること及び議事録は発言者が特定されないようにしたうえで公開することについて提案があり、承認された。

(1) アンケート結果における皿と井の比較について

皿と井を合成樹脂食器に変更するとした場合の皿と井の優先順位について議論するため、アンケート結果の数値化を行った結果について、事務局から説明を行った。

【事務局説明】

《調理員を対象とした設問での比較》

○ 「強化磁器食器の種類による作業負担の違い」の設問で、1%を1点とし、「1番目に大きい」の得点を3倍、「2番目に大きい」の得点を2倍、「3番目に大きい」を1倍として得点化を行った。

○ 井が254.5点で最も高くなり、続いて皿が229.9点となった。

《児童・生徒、学級担任、栄養教諭・栄養士を対象とした設問での比較》

○ 「食器の大きさ」と「食器の重さ」の設問における回答状況の比較を行った。

○ 「食器の大きさ」については、全対象で皿よりも井の方が「大きすぎて

使いづらい」の割合が高くなっている。

- 「食器の重さ」についても、全対象で皿よりも丼の方が「重すぎて使いづらい」の割合が高くなっている。

【部会長】

- アンケート結果を数値として客観的に見ると、皿よりも丼の方が優先順位が高いようだ。
- これを踏まえて意見をお願いしたい。

【委員からの意見】

委員	この得点化の方法が絶対の方法というわけではないが、数値化することによって、丼の方が調理員の作業負担が大きいのことが見えたと思う。それを裏付けるように、「使いづらい」という回答も丼の方が多い。これを採用しても良いのではないかと思う。
委員	調理員を対象としたアンケートでは、丼が一番目に大きいということで、やはり調理員にかなり負担がかかっているのだから、丼を一番に考えると良いと思う。 ただ、丼は週に1回しか使わず、皿は2回ということで、順位をつけるのは難しいと感じている。 二ついっぺんにというのが前からの願いだが、このデータから順位をつけるとしたら丼かと思う。
委員	負担感やはり丼の方が感じているというのが正直なところである。 お皿の方もこれだけの得点が出ているので、正直に言うと、両方いっぺんに変えていただければ一番良いと思うが、そういうわけにもいかない部分もあるのかもしれないということなので、優先順位であれば丼かと思う。
委員	本当は皿と丼の同時が良いのかもしれないが、順位をつけるのであれば、丼が1位かと思う。

【部会長】

- 皿と丼の合成樹脂食器の導入にあたっては、丼を優先することとする。

(2) 学校給食における食器のあり方について（答申）（案）

これまでの部会での議論を踏まえて作成した答申案について、事務局から説明を行った。

【事務局説明】

ア はじめに

- 平成30年11月に教育長から諮問を受け、12月に専門の検討部会を設置し、現行食器の評価について検討し、今後の札幌市の学校給食における食器のあり方について、審議を行ってきた。
- 検討にあたっては、次世代を担う札幌市の子どもたちに、安全・安心

でおいしく、豊かで望ましい学校給食を提供するため、子どもたちはもとより、学校給食に関わる全ての人々にとって、より良い食器とは何かについて、様々な視点・観点から議論を重ねてきた。

イ 学校給食における食器のあり方検討の進め方について

- 現在、札幌市の学校給食では強化磁器食器を使用している。
- 強化磁器食器は、平成8年度に、道の米の消費拡大総合対策の一環として、米飯用の茶碗として初めて導入され、その後、平成9年の学校給食運営委員会の提言に基づき、札幌市が策定した「楽しさとゆとりのある給食推進事業計画」で、ステンレス食器の改善のために導入されたものである。
- 本委員会では、平成9年の提言に基づき導入された強化磁器食器の検証・評価を行うとともに、今後の食器のあり方について検討しており、検討にあたっては、現状把握のため視察、アンケートを行うとともに、他都市の状況や他材質食器との比較を実施し、食育、安全性、作業性、耐久性及び経済性の観点から、強化磁器食器について総合的に評価した。

ウ 現行の強化磁器食器の評価について

《食育について》

- 現行の5種類の食器の組合せにより、多様な献立に対応できている。
- アンケートでは、児童・生徒、保護者、学級担任及び栄養教諭・栄養士の現行食器に対する満足度は高く、大きさ・重さはちょうどよいとの回答も多く、強化磁器食器に移行後、残食率の低下も見られる。
- 強化磁器は、見た目や口当たりがよく、料理の温かさや重さが伝わりやすい材質であり、家庭や社会生活で一般的に使われているものに近い強化磁器を学校給食で使用することは、食事マナーや食文化の体得、物を大切に作る心の醸成など食育上、有効性が高いと考えられる。
- ただし、井については、ご飯物のメニューで手に持って食べる際、特に低学年の児童には重く扱いづらいとの指摘があり、食事マナーを体得する上での支障が懸念される。

《安全性について》

- 強化磁器食器は化学物質の溶出のおそれはないが、合成樹脂食器と比べて破損率が高い。

《作業性について》

- 重く、破損しないよう取扱いに注意が必要な強化磁器食器は、軽く割れにくい合成樹脂食器に比べ、明らかに劣っている。
- 児童・生徒が配膳を行う際、井や皿を扱う時は、他の食器に比べ時間がかかっていると考えられ、給食を食べる時間への影響が懸念される。
- 調理員の食器の洗浄や食器籠の載せ替え作業は重労働となっており、特に重い井と皿は、腰や肩、手指への負担が大きく、労働安全衛生の観点から、調理員の作業負担の軽減も課題となっている。

《耐久性について》

- 強化磁器食器は破損しなければ半永久的に使用できるが、合成樹脂食器に比べ破損率が高く、食器の補充が必要となっている。
- なお、合成樹脂食器についても、経年劣化により8～10年程度で更新が必要となる。

《経済性について》

- 現行の強化磁器食器の購入実績単価は、合成樹脂食器の単価より安価であり、維持経費についても、破損率の高い一部の食器を除き、強化磁器食器の方が合成樹脂食器より安価となる。

エ 今後の学校給食における食器のあり方について

- 強化磁器食器の使用は、特に食育面で大きな成果が見られる一方で、一部の食器の作業性には課題が見られる。
- 学校給食における食器は、児童・生徒が食事マナーや食文化を身に付けていくための重要な教材であることから、食育の観点を重視する必要がある。
- 一方で、安全な学校給食の提供のためには、児童・生徒の扱いやすさ、労働安全衛生の観点から調理員の作業負担の大きさについても考慮する必要がある。
- 以上のことから、今後も強化磁器食器の使用を継続することとし、作業性の面で課題の大きい井及び皿の2食器については改善することが望ましい。
- 改善にあたっては、現行において強化磁器食器より軽量で扱いやすく、作業性に優れているPEN樹脂、ABS樹脂等の合成樹脂食器への移行を検討することが望ましい。
- なお、何らかの制約があり、井及び皿を同時に改善することが難しい場合には、児童・生徒及び調理員の負担がより大きい井を優先して行うことが望ましい。

オ 参考データ

- 参考データとして「現行の強化磁器食器の仕様」、「政令指定都市の使用食器の材質の状況」、「強化磁器食器と合成樹脂食器の特性比較」、「強化磁器食器と合成樹脂食器の重量・維持経費の比較」に関する表を掲載。

カ 資料

- 資料として「諮問書」、「学校給食運営委員会委員名簿」、「審議経過」、学校給食用食器に関するアンケート調査結果報告書」を掲載。

【部会長】

- まずは、この答申案の結論について、意見をお願いしたい。

【委員からの意見】

委員	<p>結論としては、現行の強化磁器食器については、食育の面で実際に成果が上がっているということで、アンケートの結果からもそのように捉えて良いと思う。</p> <p>結論として、井と皿に関しては、合成樹脂に移行する方</p>
----	---

	向でまとめられると思う。
委員	食育の面や労働安全衛生の面、調理の作業面等、ほぼ全ての観点から見ている文章でその結果がまとめられているので、このような形で良いと思う。
委員	会議を重ねてきて、このような方向が望ましいという表現になることは理解できる。 この後の流れについて教えて欲しい。
事務局	この部会での答申案については、今後、学校給食運営委員会の委員会で審議し、答申がまとまることとなる。会議の開催は8月以降で考えている。 答申内容を踏まえて教育委員会としてどのようなやり方でいくか、具体的に検討していくことになる。それに当たっては、実際に学校現場で候補となる合成樹脂食器を試行し、そのうえで何が良いか検討するというステージに入る。試行の内容については、学校現場の栄養教諭・栄養士、調理員と事務局で検討することを考えている。 試行は数ヶ月から1年程度かけて行い、その後、導入する食器が決まったら、数年かけて徐々に導入していく流れで考えている。
委員	早ければ来年の4月から井が変更になる可能性があるということか。
事務局	おそらく来年度から検討して試行する形になるので、具体的な検討はさらにその先になると思う。
委員	流れについてはわかった。 最後に「何らかの制約があり」とあるが、経済的なことを指していること以外は考えられなかった。
委員	今までやってきたことが良かったとか、評価できるという部分がきっちりと述べられて、課題もきちんと書かれている。そして、井と皿の二つの改善が望ましいが、優先度としてはこうだというように、話し合ったことが全て盛り込まれている。 この答申案によって、今後話し合っていくための基本的な良い資料ができたと思う。これに異論はない。
部会長	事務局に確認だが、本日欠席の委員からはこの答申案について何か意見をいただいているか。
事務局	特に修正等の意見はないということで連絡をいただいている。

【部会長】

- 答申案の結論については、案のとおりとする。
- 続いて、答申案の全体的な文言について、修正等の意見をいただきたい。

【委員からの意見】

委員	予算的なことも含めてだが、報告書の資料はカラー印刷になる予定か。
事務局	ホームページに載せるのはカラーで、印刷する場合も可能であればカラーで考えている。 今回は間に合わなかったが、網掛けの形を変えたりして、カラーと白黒の両方で印刷してみることができるような形に修正したいと考えている。
委員	カラーの印刷は大変見やすいが、白黒にしてしまうとただのベタになって見えなくなるので、青はストライプ、赤は水玉のように、モノクロでわかりやすくするのが理想的だと思う。

【部会長】

- アンケート結果については、白黒印刷でもわかるように体裁を整えることとし、今後開催される令和元年度第1回札幌市学校給食運営委員会にはこの答申案を提案することとする。

(3) その他

【委員から】

委員	試行がスタートしたときのイメージをどうやって決めていくのか。校数は3校で小・中という感じで決めていくことになるか。
事務局	試行する校数等、具体的なところについては、今後学校現場の栄養教諭・栄養士、調理員、事務局とで、別の会議体で決めていきたいと思っている。
委員	実際に学校で使ってから、いろいろな意見が出てくると思うが、学校給食運営委員会ではなく、他の会議で話を詰めていくということか。
事務局	そのようになる。

【事務局から連絡】

- 本日決定した答申案については、令和元年度第1回札幌市学校給食運営委員会に提案し、改めて審議する。
- 森委員は平成30年度の委員任期である7月9日をもって任期満了となる。辻部会長、千葉委員、松山委員、百々瀬委員、今野委員は引き続き委員としてご協力をお願いしたい。

6 閉会